

城山エコミュージアム通信

平成27年(2015)3.15 第23号



エコミュージアムとは、エコロジー(生態学)とミュージアム(博物館)の造語で、その地域そのものが、生きてきた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。相模原市城山エコミュージアムは、地域住民主体の活動により資料収集・調査等を行い、資料を現地において保存し、展示し、広く活用することを目的として活動しています。

“地域がわかる・学ぶ・楽しむ” つどい開催

テーマ

地震に強いって本当?

気になる足もとのぞいてみよう!



2月28日城山公民館において、城山エコミュージアムのつどいを開催しました。この会は、城山エコミュージアム運営委員会が日頃の活動と研究成果を地域の皆さんに紹介する場として、初めて開催したものです。冒頭「城山エコミュージアムの紹介」、昨年開催したエコミュージアムツアーの概要報告、「城山地区の養蚕研究とカイコの飼育結果報告」を説明。会場内では、活動報告の展示を行いました。休憩時間には、掲示の前に人だかりができ活発な質問が飛び交っていました。続いて、今回のテーマである「地震に強いって本当? ~気になる足もとのぞいてみよう」について、相模原市立博物館学芸員の河尻清和さんから講演を頂きました。河尻さんには、「地震に強いって本当?」を講演の導入に、丹沢山地と多摩丘陵の間に形成された相模野台地と河岸段丘の成り立ち、小仏層群について分かりやすく解説して頂きました。講演終了後は活発な質疑応答が行われ、普段聞くことのできない地質、地震、火山に関する基本的な質問にも答えて頂きました。参加者73名。皆さん学ぶことへの関心と意欲がとても高く、閉会後も演者への質問がしばらく続き、大変有意義な会となりました。[2面へ続く](佐々木 徹)



今回のトピック 城山エコミュージアムのつどい報告 シリーズ養蚕連載開始
城山検定「赤土はどのようにしてつくられたのでしょうか?」 城山探訪等



説明：加藤 正彦さん



説明：山口 雅之さん



説明：金子 直美さん

城山エコミュージアム紹介

エコミュージアムという考え方について、城山での活動の成り立ちから変遷、近年のおもな活動について、ご紹介しました

城山エコミュージアムツアー 『激変する小倉橋周辺を歩く～過去から未来へ』紹介

昨年6月の圏央道開通に合わせて企画、実施されたツアーの内容についてご紹介しました

城山地区の養蚕と カイコ飼育結果報告

「城山地区市民文化祭」、「市文化財展」での展示内容について、写真と模型を使ってご紹介しました



講座の中から 学んだことメモ



相模原台地と河岸段丘は古相模川の堆積物と富士、箱根等の噴火堆積物によって形成された

九州の巨大火山噴火の堆積物も相模原台地の形成に関わっている

関東山地は昔の海溝の堆積地層が地殻プレートの沈み込みの際にはぎ取られ盛り上って形成された

この辺りで露出した地層を見ることのできる「小仏層群」とそれより少し新しい「相模湖層群」は、同様の地層の現象が見られる四国の地名をとり「四万十帯」と呼ばれる

等とても多くを学ぶことができました
河尻先生、ありがとうございました

質疑応答・意見交換から

Q. 3.11 東日本大震災の時、高尾山や緑区の旧津久井地区は東日本大震災時に揺れが小さかったとの発言がありましたか？



A. 震源が遠い場合には山地は平地に比べ地震の揺れは小さいが、震源が近い場合にはそうはならないのでご注意ください（河尻先生）



Q. この近くに地層を観察できる場所はありませんか？



A. 道路工事の際に地層が露出することがあるので日頃から注意して見ると良いですよ（樋口孝治副委員長）



ご来場、ありがとうございました！

知ってナットク！
しるやま



城 山
検 定



問 題 赤土はどのようにしてつくられたのでしょうか？

川から運ばれた泥が固まってできた

元々そこにあった岩石が風化して細かな土になった

中国から飛んでくる黄砂が積もった

火山灰が降り積もり風化して作られた

（出題者：山口 雅之）

地域の養蚕に関わっていた方から伺ったお話を掲載する新連載コーナー

第1回 「蚕の一生と蚕室について」

さいとう としお
齋藤 敏男さん（元養蚕組合長）へのインタビューから

米と畑作と養蚕が中心の城山地区の農家では、養蚕が唯一換金作物としてこの地域の生活の糧となっていました。蚕の飼育は女の、桑の手入れや収穫は男の仕事と考えられていました。城山地区では蚕の飼育は最高年7回行われた記録がありますが、齋藤氏自身は年6回（春蚕が2回、夏蚕、初秋、晩秋、晩晩秋、初冬）飼育されたのが最高だそうです。

立夏の頃（5月5日あたり）になると居間の畳がはがされました。床に開けられた穴に脚をはめ、エガ棚が組み立てられました。ホルマリンガスで消毒し、目張りをして火を焚きました。こうして居間は蚕の飼育場所に変わり、住人は納戸などで寝起きをしたそうです。蚕種（蚕の卵）は問屋から購入しました。卵をふ化させ、蚕座紙を敷いてその上に鳥の毛のほうきで掃きたてた、生まれたばかりの幼虫（毛蚕）には桑の先端の柔らかいところを餌として与えました。（記：山口 雅之）

蚕の幼虫の小さな時期は温度・湿度の管理など飼育が難しく「蚕を育てるのがうまい女性」は周囲から「あの家はよい嫁をもらった」とほめられるほどでした。



城山探訪

フクロウくん



1月4日（日）若葉台から城山発電所に向かう道路を歩いていたら、道端にフクロウが死んでいた。まるで眠っているかのような穏やかな表情。周りに羽など落ちていない、怪我もしていない一体どうして？博物館へ連絡すると、学芸員さんが来てくれました。曰く、「まだ若い個体ですね。骨も折れていないので交通事故ではないでしょう」とのこと。「胃のあたりの感触では、あまり食べていないよう。もしかしたら食糧不足、若い故に冬を乗り切れなかったのかもしれませんが」。学芸員さんが持ち帰り調べてくださることになりました。



また、傷が無く状態が良いので剥製にするとのことでした。その後、2月中旬の早朝に2日ほどフクロウの声を聞きほっとしました。

（多羽田 啓子）

城山検定

解説



正解は、4

我々の住んでいるあたりでは富士山や箱根の噴火などにより約40万年前から1万年前にかけて火山灰が連続的に降下堆積しました。時間の経過とともに風化し、中に含まれた鉄分が酸化して赤みを帯びた土（赤土）となりました。これは関東ローム層とも言われています。冬になると霜柱をよく見かけますが、霜柱の発生には関東ローム層の粒のサイズがちょうどよいようです。（山口 雅之）



活動レポート

11/29
開催

城山湖周辺をガイドしました
城山湖モニタリングツアーガイド



城山湖里地里山観光振興協議会主催で、「大パノラマと里山歩き」のガイド協力を行いました。エコミュージアムツアーとノルディックウォーキングの初めてのコラボレーション。生憎雨に見舞われましたが楽しく歩きました。寒くて震えながら食べた昼食の「ぼたん鍋」が何ともいえないくらい美味でした。
(田中 次雄)

2/20
~ 22

今年も出展しました

第40回相模原市文化財展出展



ユニコムプラザさがみはらにおいて開催された、文化財展に今年も出展しました。昨年開催したツアー「激変する小倉橋周辺を歩く～過去から未来へ～」の紹介と、文化祭で発表した「養蚕研究」の発表を行いました。来場者された方から、養蚕についての質問や貴重な情報も頂きました。今後の活動に役立ててゆきたいと考えています。(金子 直美)

しろやま ミニ図鑑



アセボ、アシビとも呼ばれる馬酔木。庭木などでもすっかりお馴染みな木ですが、意外と「名前と実物がわからない」という方も多いのではないのでしょうか。2月から5月に白いツボのような花が垂れて咲き、山道や、若葉台の尾根道等でも見ることができます。また、馬が食べると麻痺して酔っ払ったようになるので馬酔木と書くそうです。葉は毒がありますのでご注意下さい。

(画：多羽田 啓子)



あせび 馬酔木 (ツツジ科アセビ属)

Information

しろやまを愛する方大歓迎
活動への参加者
常時受付中!

次号は、6/15頃
発行予定です



編集 後記

エコミュージアムは一定の文化圏の歴史、文化、自然などを時間空間的に捉え学ぶ。講演会で取り上げた大地の成り立ちは億年、千万年の時間的現象である。地球が誕生して45億年、文明の誕生からは1万年足らず。人間の築いてきたものがどれほどちっぽけで、それゆえかけがえのないものか気づかされる。(佐々木 徹)

企画/作成：相模原市城山エコミュージアム運営委員会

発行：相模原市立城山公民館

TEL：042-783-8194【直通】

FAX：042-783-1721

ホームページをパソコンで見るとは

相模原市 城山エコミュージアム

検索

相模原市立城山公民館ホームページ

<http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html>

